

診断書(精神障害者保健福祉手帳用)

(2019.4)

氏名			大正・昭和・平成・令和 年 月 日生 (歳)
住所			
① 病名 ICDコードは、右の 病名と対応するF00 ～F99、G40のいずれ かを記載)	(1) 主たる精神障害 _____ ICDコード () (2) 従たる精神障害 _____ ICDコード () (3) 身体合併症 _____ 身体障害者手帳 (有・無、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	※本診断書に係る申請には主たる精神障害の初診年月日より6か月以上の経過が必要 主たる精神障害の初診年月日 _____ 年 月 日 診断書作成医療機関の初診年月日 _____ 年 月 日		
③ 発病から現在までの 病歴及び治療の経 過、内容(推定 発病 年月、発病状況、初発 症状、治療の経過、治 療内容などを記載す る)	(推定発病時期 _____ 年 月頃) ※入院歴および通院歴についても記載してください。 * 器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 _____ 年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等(該当する項目を○で囲む) (1) 抑うつ状態 1 思考・運動抑制 2 易刺激性、興奮 3 憂うつ気分 4 その他 () (2) 躁状態 1 行為心迫 2 多弁 3 感情高揚・易刺激性 4 その他 () (3) 幻覚妄想状態 1 幻覚 2 妄想 3 その他 () (4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1 興奮 2 昏迷 3 拒絶 4 その他 () (5) 統合失調症等残遺状態 1 自閉 2 感情平板化 3 意欲の減退 4 その他 () (6) 情動及び行動の障害 1 爆発性 2 暴力・衝動行為 3 多動 4 食行動の異常 5 チック・汚言 6 その他 () (7) 不安及び不穏 1 強度の不安・恐怖感 2 強迫体験 3 心的外傷に関連する症状 4 解離・転換症状 5 その他 () (8) てんかん発作等(けいれんおよび意識障害)(発作型は以下を参照して該当するものを○で囲んでください) 1 てんかん発作 発作型(イ・ロ・ハ・ニ) 頻度(_____ 回/ _____ 月・年) 最終発作(_____ 年 月 日) ※てんかん発作の型 イ:意識障害はないが、随意運動が失われる発作 ロ:意識を失い行為が途絶するが、倒れない発作 ハ:意識障害の有無を問わず、転倒する発作 ニ:意識障害を呈し、状況にそぐわない行為を示す発作 2 意識障害 3 その他 () (9) 精神作用物質の乱用及び依存等 1 アルコール 2 覚せい剤 3 有機溶剤 4 その他 () ア 乱用 イ 依存 ウ 残遺性・遅発性精神病性障害(状態像を該当項目に再掲すること) エ その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無(不使用の場合、その期間 _____ 年 月 から) (10) 知能・記憶・学習・注意の障害 1 知的障害(精神遅滞) ア 軽度 イ 中等度 ウ 重度 療育手帳(有・無、等級等 _____) 2 認知症 3 その他の記憶障害 () 4 学習の困難 ア 読み イ 書き ウ 算数 エ その他 () 5 遂行機能障害 6 注意障害 7 その他 () (11) 広汎性発達障害関連症状 1 相互的な社会関係の質的障害 2 コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3 限定した常同的で反復的な関心と活動 4 その他 () (12) その他 ()			
⑤ ④の病状・状態像等の具体的程度、症状、検査所見 等 [検査所見:検査名、検査結果、検査時期]			

⑥ 生活能力の状態（保護的環境ではない場合を想定して判断する。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断する）

1 現在の生活環境

入院・入所（施設名 ）・在宅（ア 単身・イ 家族等と同居）・その他（ ）

2 日常生活能力の判定（該当するものを○で囲む）

（1）適切な食事摂取

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

（2）身辺の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

（3）金銭管理と買物

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

（4）通院と服薬

（Ⅰ） 要 ・ 不要

（Ⅱ） 適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

（5）他人との意思伝達・対人関係

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

（6）身辺の安全保持・危機対応

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

（7）社会的手続や公共施設の利用

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

（8）趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動への参加

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3 日常生活能力の程度

（該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲む）

- （1）精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。
- （2）精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。
- （3）精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。
- （4）精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。
- （5）精神障害を認め、身の回りのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

⑧ 現在の障害福祉等のサービスの利用状況

（障害者総合支援法に規定する自立訓練（生活訓練）、共同生活援助（グループホーム）、居宅介護（ホームヘルプ）、その他の障害福祉サービス、訪問指導、生活保護の有無等）

⑨ 備考

上記のとおり、診断します。

年 月 日

医療機関の名称

医療機関所在地

電話番号

診療担当科名

医師氏名（自署又は記名捺印）

※自立支援医療費(精神通院医療)の支給認定を同時に必要とする場合は、以下も併せて記載すること。

⑩ 現在の治療内容

1 投薬内容（該当する項目を○で囲んでください）

〔 1. 抗精神病薬 2. 抗不安薬 3. 抗うつ薬 4. 抗躁薬 5. 抗てんかん薬 6. 睡眠薬 7. その他（ ） 〕

2 精神療法等

〔 1. 通院精神療法 2. 標準型精神分析療法 3. 通院集団精神療法 4. ショートケア
5. デイクア 6. ナイトケア 7. デイ・ナイトケア 8. その他（ ） 〕

3 訪問看護指示の有無（ □有 ・ □無 ）

⑪ 重度かつ継続に関する意見（該当する項目を必ず○で囲んでください）

1. 該当
2. 非該当（申請しない場合も含みます）

精神医療に3年以上従事した経験の有無（主たる精神障害がF40～F99の場合に記載してください。）

1. 有り
2. 無し

「1. 有り」の場合、該当する下記項目を○で囲んでください

1. 精神保健指定医
2. 精神科医（3年以上精神医療に従事）
3. その他の医師